

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図る。
- 主体的に取り組み、認め合い、話し合い、学び合う授業の実践を行う。

北小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 前田 久美	委員 校長 中村 誉 研修主任 阿部 さおり 教頭 神崎 貴広 生徒指導主任 川又 佳也 教務主任 坂口 順子
------------------	--

校長

中村 誉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算が身に付き、基礎・基本の内容の習得ができています。 ●活用問題に対しては、不十分であるため学習に対する興味・関心を高めるための取組を工夫する必要があります。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・語彙数が増え、正確に読んだり書いたりできる。	・朝のモジュールや授業の導入部に、単元ごとの復習や既習内容の発展・活用問題等を取り入れた課題を与え、継続して行う。 ・板書やノート指導、図書等の言語環境を整える。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員間での授業参観や研修、報告など、機会を捉えて取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする活動を好み、意欲的に取り組める児童が増えてきた。 ●自分の思いや考えをよりよく相手に伝えたり、説明したり、新しい考えを作り出したりする力に課題がある。	・問題解決に向けての方法を考え、自分の考えを確かに、豊かに表現することができる。 ・学習場面において、適切な言語活動により自分の思いや考えを表現することができる。	・授業のめあてを明確に示すとともに、課題解決のための話し合いや発表の場を設定する。 ・自分の考えや立場を筋道立てて話したり、書いたりすることができるよう、話形や言葉等を具体的に提示する。 ・児童が意欲的に学習や発表ができるよう、ホワイトボードやICT機器を効果的に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組むことができる。家庭学習や朝読書、自主学習の習慣が定着してきている。 ●真面目に取り組むが、自分で課題を設定し、主体的に取り組める児童が少ないため、家庭学習や自主学習の充実を図るための取組が必要である。	・学習課題や家庭学習に対して主体的に取り組むことができる。 ・学習過程において、自らを振り返る時間を設定し、達成感や自身の成長を実感することができる。	・主体的な体験や活動を取り入れたり、発表する場を積極的に設けたりする。また、話し合い活動の場面を効果的に取り入れる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習や自主学習の仕方を具体的に提示し、個に応じたアドバイスを行う。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

